有効な時間の使い方！？

シロ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
有効な時間の使い方！？

【Ｎコード】
Ｎ７３５６Ｚ

【作者名】
シロ

【あらすじ】
タイトルの意味が分からない？？結構。これからこの話を読んでいただければ、分かりますから。
主人公は、超天然。バカのように見えて・・・・やっぱり馬鹿です。とにかくこの少年主人公の織り成すコメディー＆ちょっと恋愛的をご覧ください。
※誤字、脱字等がありましたら、コメントまで・・・・
※表現方法の「思える」は、一瞬迷うだけでほぼ確定しています。なので「思う」ととってくれて結構です。それでも気になる方はコ

メントまで・・・・・

時間の使い方ー初級編　（前書き）

こんな面白くもない、↑面白いと誰か言って、、見に来てくれてありがとうございます。小説のレベルは徐々に上げていくので、それまでは作者の駄文にご付き合いください。

時間の使い方ー初級編

時間の使い方は人それぞれだ。　時間を有効に使えるもの程この世界で成功している。　だが、それとは真逆のものがここにいた

―――――――――――――――――――――

黒髪のポニーテールの男が言った。

「ねぇ～これってさ、やらないとダメかな・・・」

ギャル風のファッションをしている女は、

「やらないとダメに決まってるでしょ！！！」

この言葉を聞いただけでは、色んな誤解を生んだりするかもしれない。

だが、そんなことはない。

「宿題はやらないといけないに決まってるでしょ！！！」

そう、話している内容はごく普通。どこにでもある宿題の話だ。

ーある一日〈春〉ー

先生と思える服装の女は、憂鬱だった。理由は単純明快。昨日男に振られたことだ。

（なんで、、私が振られたの！！！！ちゃんと相手に話を合わせるようにしてたし、手料理とか、もちろん内面だけじゃなくて外見だって！！！）

そんなイライラの先生に転校生の話があった。

「澤咲(さわざき)先生。転校生のことよろしくお願いしますよ^^」
そんなことはとっくの前から分かっていた澤咲だが、そんなことを表にはもちろん出さなかった。
「そうでしたね、、忘れていました。ありがとうございました、教えていただいて、、」
そんな分かり切ったことを澤咲に教えた男は、話している間中、話し終えたあとも沢咲の胸を見ていた。
（このエロ男めっ！！）
「あの、何か・・・」
「特には、失礼。」
あきらかに澤咲の胸を見ていたことは、明らかなのだが知らないフリを続けるのには、理由があった。
（まったくどいつもこいつも胸ばっか見やがって！！！まぁー私の胸が周りの人より大きくて惹き付けてしまうのは事実だから、しょうがないけど・・・　こうもジロジロ見られると、こっちもなんか、こう、むかつくのよ！！もうどうしても見たいなら、見せてください的に大胆に言ってくれた方がいいのよ、
　でも私は、このキャラを崩すわけにはいかない。絶対に。）
そしてその理由が沢咲自身のためではなく、自分以外の人のためという、数年前の沢咲の考えとは真逆のものだ。だが、これは・・・・・　それはまた別の機会がいいだろう。
今は、この話を追っていくことにしよう。

「転校生は、、、あーあいつか、、」
・
だが、沢咲は一瞬戸惑ってしまった。なぜなら、そこにはポニーテールの男がいたからだ。
（ポニーテールって普通女子、、いや・・・髪型の問題じゃなくて顔立ちがきれいすぎる。本当に男子？）沢咲は、疑問となった答えをその生徒に聞いた。

「えーと、、本当にあなた男子生徒？」
「そうですよ・・・それ以外に何に見えますか？こんな男子の制服着て・・・」
（やっぱりそうよね、、こんなきれいな男子いるのね！？）
・・・

澤咲が驚いている間、その生徒は澤咲のあの胸を凝視していた。
その視線に気づいた澤咲はため息をついた。
（こいつもか、、）
だが、いつもと同じように対応する澤咲の言葉より早く、その男は言葉を発した。
「先生、スゴイ胸デカイですね。何カップですか？」
その男子生徒は、先生に率直に感想を述べた後、質問をした。それが、先生の怒りにつながるとも知らずに・・・
（何を言ってるんでしょうか！！！！！確かにさっき隠れてするより、堂々とする方がいいと思いましたが・・・それは、どっちにしろ私にとっては不快な感覚は変わらないんですよ、、、）
心の声が聞こえているなら、その生徒は変わったかもしれない、多分無理だが、
「やっぱり、Ｈぐらいですか？」
この連続攻撃をいつものキャラで返そうと澤咲も言葉を発した。
「そうですね、あまりそういうことを女性に聞くものではありませんよ。ちなみにその質問には答えられません。」
「あっすいません。またやってしまいました。俺ってよく考えてること口に出ちゃうから・・・」
こんな会話をしているとＨＬの時間が近づいていた。
それに気付いた澤咲はすぐに教室へ案内した。だが、その道のりの中、澤咲は考え事をしていた。
（この子、いじめられそう。こんな物事をなんでも素直に言ってたら、周りから嫌われるわよ。前の学校でいじめでもあったからこっちにきたのかしら。）

澤咲は考え事をしているといつの間にか教室の前にいた。
「先生、ここですか。」
「ええ、そうよ、」
澤咲は少しその生徒のことが心配だったが、その男を教室に送り出した。
（さあ、ここからよ）　と、まるで弟子でも送り出すかのような送り出し方だった――――――――――

＊＊＊
　転校生の出現とともにクラス内は静まり返った。
そして、またざわつき始めた。
聞き取れた会話は、
（かわくない！！！あの子。）
（そうだけど、男子だよ。）
（でも、そこらの女子よりかわいいかも・・・）
一方では、
（気の弱そうな奴だぜ・・・・）
（パシリも困ってたし、アイツにするか）
（いいんじゃないか、、）
もう一方では、
（運動神経いいのかな？？）
（分からないな。体をもうちょっと近くで見なければ・・・・）
（この、変態が！！！！）

　さまざまな危ない会話が聞こえてくる。
かわいそうに、、、でも私は助けない・・・　それがあなたのためにも、私のためにも――――――

「じゃあ自己紹介をよろしく。」
「黒城彩斗（こくじょうさいと）です。よろしくおねがいしまーす 」

やる気のない挨拶。無気力さをアピールしている顔があいつ等に目をつけられる理由になったのかもしれない。
「えーと席は・・・・・・「先生、ココ開いてますよ。」」

指摘した席はソイツの前の席だった、そこは確かに開いていた。だが、気に入らなかった。アイツにそんなことを指摘されるなんて、、
私の一番嫌いな男子生徒。番場勝介（ばんばしょうすけ）、外見でも分かる完全な札付きの不良だ。
髪は染めるわ、服装は乱れてるわ、態度は悪いわ、ソイツは最悪の生徒だ。
クラスメイトを手下にし、その中でパシリを決める。そのパシリは一年間あいつ等、不良のいいなりだ。
それで相談してくる生徒を何度も見てきた。私は何もできない――
――――――――
でも、見過ごしたりするのは辛い。何もないに越したことはないけど・・・無理でしょうね、、

だが、あの男子生徒は私の想像を覆し、想像もつかない言葉を発した。
「あれが、フリョーってやつかーー　やっぱ日本って独特だよね～」
クラス内の全員が驚いた。私も含めて、

だが、それも一瞬だった。
すばやく、あの子に近づき耳打ちをした。
何を話してるか分からないけど、危ないことだけは分かる。
「了解、ボス」
どういう会話でそうなるか分からんが、この天然ぶりにはあきれるしかない。

周りの数名からは、笑いが聞こえてくる。
バカにされたと思ったのか番場は、苛立ちを隠せないぐらい表情を変えていた。
本当にかわいそうあの子、、

私がクラスから出て行った後、
一斉に転校生にクラスメイトが押し寄せたのが見えた。
今年のクラス、騒がしくなりそう。でも、もうあの子のことは考えないようにする。
・・・
あの子は特別だもの――――――――――

＊＊＊
日本に来て、まだ日は立っていないが、日本は面白いと思う。
独特の文化を持ち、個々の個性がよく出ている。

先生が去ったと同時に押し寄せる生徒の波・・・・　（いい表現ができるな～自分を褒めてやった。）これが証拠だ。転校生ごときでこんな反応するなんて・・・
それより周りの質問の数々が耳に響く。適当に相槌でも打とうかとも考えたが、いっぺんに何人も話しかけるから一つも質問が分からず答えられない。
そういえば、日本には聖徳太子という人物がいて複数の人の話を聞けるらしい。スゴイよなーー、

考えふけっているといつの間にか授業の開始時間になっていた。

ー授業中ー
授業は英語のようだ。俺にとっては簡単だが、周りとって英語とは苦痛でしかないらしい。

俺は英語の授業を簡単にノートにまとめ、しばらくぼーーーっとすることにした。

後ろから威圧的なオーラが伝わってくる。
あっそういえば、さっきのあれどういう意味だろう。
「次の休み時間、３Ｆトイレに来い。」
ツレションとかいうやつか？？？日本人は恥ずかしくないのだろうか？？？みんな仲良くそんなことして・・・・
もしくは、ゲイだろうか・・・　何でその言葉が出てきたかは疑問だが、、　自分でも・・・・

俺が色んなことを考えていると、
俺の名前を先生を呼んでいることに気付いた。俺は先生の質問の英語を直訳した。

ー授業終了ー

さて、真相はいかに――――――――――

時間の使い方ー初級編　（後書き）

まだ、主人公に友達がいない状態なので、、ツッコミがいません！！！！

先生を代行で立ててみましたが失敗でしたね。。先生は色々と訳ありそうですね。今後、本編では出てきませんが・・・・番外編では出すつもりです。

今後もこの小説を見ていただけるとうれしいです。＋指摘をください。

時間の使い方ー初級編〈無駄〉（前書き）

前回のツッコミのいない状態を解決するために、友達をちょくちょく作ることにしました・・・ということではないのですが、話の流れの上こうなりました。

時間の使い方ー初級編〈無駄〉

ー休み時間ー
　３Ｆのトイレねーーー
ここか・・・　うわーーー意外と狭そう。こんなところに３人も高校生が密集しているのか。
行くのやめようかな・・・・

まぁいいか＾＾
どうせ休み時間なんて暇だったし、、

「こんにちはーーー。」
ギロッ・・・この擬音語が似合うような目つきだ。またいいこと言ったか、自分を褒めてやろう褒めポイント２ゲット。
　「いい度胸だな！！ここまで来れるとは・・・」
「うーーん、まぁーーここに入るか色々悩んだよ。ほらしかも、トイレに集まるなんて汚いじゃん。」
「なっ！？」
「ハァ！！！」
「・・・、、」
本音を全部言わなくて良かった。
「ごめんなさい。」
こういう時は謝るのが一番だ。
「本当に反省してるなら、これから１年俺たちのパシリになれ。」
「いいですよーーー」

「・・・・・・・」
なんで黙るんだろう。
「お前、ホントにいいのか？」

「いいですよ。」
用件はこれだけだろうか？休み時間も終わるし、そろそろ教室に戻りたいんだが、、
「えーと用件はこれだけですか・・・そろそろ教室に、、」

「ちょっと待て！！！お前ホントに男か？」
「ボスは、ゲイなんですか？」
質問を質問で返すという高等テクニックでこの場を盛り上げて帰ろうとした。
だが、思いのほか当たったのか
「ちっ違う！！！！それにボスって言うな！！！！」
「おい、乗せられるなよ・・・それにそんな動揺したらばれるぞ。」
「ばれるってなんだよ！！！俺はそもそもそんなんじゃねーからな、、」
思いのほか、このメンバーはフレンドリーで面白いと思った。
なので、友達認定することにした。
「友達1号～3号ゲット。」
「友達じゃないからな～～～～～！！」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7356z/

有効な時間の使い方！？

2011年12月26日22時52分発行